

チリ 雨の被害はこの30年で最悪

FreshPlaza 2023年6月29日

先週の大雨と洪水の後、チリの生食用ブドウ、サクランボ、ブルーベリーの一部の園地はまだぬかっけていて近づくことができない。野菜生産者は特に大きな打撃を受けており、チリからの初期の報告では一部の生産者はすべてを失った。チリの生産・輸出業者であるフルセントロ社の農業専門家ファン・パブロ・オロスコ氏によると、「チリのこの雨は、少なくとも過去30年間で最悪であった。」

青果物業界は、インフラの損傷を示す初期の兆候について被害の程度をいまだ確認中であるが、果実や野菜への影響はより長期的に見られる。

「多くの川が氾濫し、土地や家屋が浸水した。こんなに短い時間でこんなに雨が降った冬は記憶にない。洪水に見舞われたブドウ生産者もいるが、幸いなことに今は冬で、果樹やブドウの木は休眠している。ブドウの木の幹に傷や損傷がない限り、それほど悪いことにはならない。問題を防ぐために薬剤散布を行う必要があるが、問題ないはずである。ジャガイモ、レタスなどの野菜生産者については状況が異なり、これらの生産者にとって洪水はまさに災害である。」



2023年6月22日から25日にかけての600mmを超える大雨と洪水が、首都サンティアゴやバルパライソの主要港を含むチリ中南部に影響を及ぼした。柑橘類、アボカド、ブルーベリーは現在出荷シーズンであり、野菜も出荷されているが、生食用ブドウとサクランボは冬の休眠状態にある。

チリで最も被害を受けたセントラルバレー地域にブルーベリーとサクランボの農場を構える別の大規模生産・輸出業者は、「チリの一部の農場で大規模な洪水があった。ブルーベリー農園が影響を受けたが、水に浸かっているサクランボの果樹園でも大きな問題がある」と述べた。

チリ果実生産者連盟(Fedefruta)による初期の査定は、一部の生産者がすべてを失ったことを示している。同連盟のホルヘ・ヴァレンズエラ・トレビルコック会長はさらに、洪水によって多くのインフラ被害があったと述べている。これには、流失したかひどく損傷した重要な灌漑施設とポンプが含まれる。畑に置かれていたトラクターなど他の機器も損傷している。同連盟は、調査の結果が入り次第、より多くの情報を公表する。しかし、多くの生産者は、果樹園がぬかるんだり、水位が高かったりしてまだ果樹園に入ることができないと言う。被害がどれほどひどいかを確認するためには、水が引き、園地が乾くのを待たなければならない。

チリの青果物業界の別の専門家らは、インフラの損傷を確認しており、「多くの灌漑インフラが失われ、オンラインの地籍簿を作成中である。プランテーションも失われたが、我々の印象では、果樹産地では最小限のようだ。そこでは最も深刻なことはインフラの喪失である」と述べた。

執筆者: クレイトン・スワート